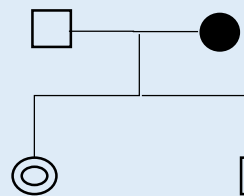


# 多職種・多機関による精神科長期入院者の退院支援

## 家族構成・関係機関



<本人>統合失調症 50歳代 女性Aさん  
精神科に25年以上入院  
入院前父から性的虐待を受けていた様子  
弟は音信不通

### <関係機関担当者>

B市生活保護係、同市障害福祉係、C障害者相談支援事業所、D地域生活支援センター  
Eホームヘルプ事業所、F保健所、G不動産、  
当院精神科訪問看護、当院デイケアスタッフ

## 支援のきっかけ

- 院内多職種で長期入院者に対する「長期入院者退院支援プログラム」（以下プログラム）を策定。
- 病状を踏まえ、長期入院者の状況について、各職種によるアセスメントを実施。同程度の状況の患者をグループ化し、各々のグループに応じた退院支援をすすめる。
- 当初本人は消極的であったが、プログラムの実施を時間をかけて促す。

## 支援内容

### <支援計画>

- プログラムへの参加を促し、本人の地域で暮らしたいという思いを引き出す。
- 地域で生活している当事者との交流会を企画し開催。生活をする具体的なイメージを本人が持つように工夫。
- C障害者相談支援事業所、D地域生活支援センターへの見学やC、D事業所主催のイベントへの参加、公共交通機関の利用、外食や買物、退院後の居住先の確保。

### <支援の経過>

- 粘り強く本人に退院に向けて働きかける。入院中にAさんと仲が良かったHさんにも交流会に参加して頂き、退院後の生活について意見交換。
- 交流会への参加をきっかけに、サポートを受けながら充実した生活を送ることについて、Aさん自身も「私もやってみたい」と、プログラムに参加するようになる。
- 退院への具体的な手配として、B市障害福祉係、F保健所に地域移行支援事業を申込。外出支援を開始し病院スタッフも同行でアパート探し。Hさん宅の近くに物件が見つかる。
- 賃貸契約を結び、本人の意向に添ったサービス調整を行う。関係各所でケア会議を3回開催し退院となる。

### <多機関・多職種連携による支援>

- プログラムを通じて多職種で本人の能力を評価し、本人のニーズに合わせて退院支援の計画を立てる
- 退院前訪問指導、地域移行支援事業を活用して住居の確保、生活用品の購入、サービスの調整を行う
- Hさんの支援者も交えケア会議を開催し、医療、福祉、行政で退院後の支援体制、連携体制の構築を図る

## 効果

- ◆退院に消極的となっていたが、プログラムの実施により本人の潜在的なニーズを引きだし、自ら退院しようという意欲を喚起できた。
- ◆地域の事業所との交流会を実施したことで、地域で生活されている当事者の方の生の声が本人に届き、退院後の生活の具体的なイメージを持つてもらうことができた。
- ◆退院前訪問指導、地域移行支援事業を活用し、退院に向けての住居、生活用品の準備、地域生活の体験のサポートができた。
- ◆Hさん宅の近くに生活の場を確保したことで独居への不安解消の弾みを図ることができた。Aさん「退院して良かったわ」